

『思い思いの若者たち』



＜若者支援への国の本気度を問う＞(1)



事務局長 布袋 太三

突然のコロナ禍は世界中を震撼させています。中でもアメリカの危機的状況はきわめて深刻です。アメリカは日本のような医療保険制度も持ちえていないし、貧富の差も激しいので医療にかかれないう人々が大量に出てきてしまいそうで、そのことは制御しがたいほどの社会不安をもたらすと思われます。アメリカ社会の難局は日本にダイレクトに影響しますので今後はさまざまな分野で日本も予断を許さない状況に見舞われるかもしれません。

ところで、書店の平棚には去年頃からひきこもりや生きづらさを抱える若者に関連する本がよく目につくようになりました。社会の風潮がこうした問題を見過ごせなくなってきているのだと思われれます。

確かに低賃金と不安定な労働条件の若い非正規労働者の群は大量に存在していますし、加えて発達の凹凸に悩む人々や推定値百万人を越すひきこもりなど、苦吟にあえぐ若者の数はなぜか減少に転じる気配がありません。

言うまでもなく今日の広範な若者の生きづらさは個人のヤル気や性格の問題ではなく専ら社会構造上の諸問題に帰すわけですから、これはもう優れて政治的な課題と言えます。

そこで政府はこうした若者問題のためにやっとう重い腰を上げはじめ、昨秋にはひきこもり支援にかなりの高額の予算措置を提示して見せました。政府としては理由はともあれ困難に絡みとられた若者たちをこれ以上放置しておくこと近い将来には

社会保障関連費の高騰につながってしまうという危機感に突き動かされたのかもしれませんが。

当然ですが、たとえ遅きに失した感も否めなくとも思い切った財政措置は歓迎すべきことなんです。実はそのお金の配分が本当に切実に必要とするところにまわっていかないのではないかと私はかなり危惧しています。

実際、私たちハートツリーはこの20年もの間せめてあと一人支援員を増やすための補助があればと思いつつもかかないませんでした。

一人一人の若者と地味に向き合いながらギリギリの居場所運営を続けているNPOは私たち以外にも全国にはいっぱいあります。

手に余る難関に遭遇し、混迷に沈み込んでしまった若者たちの浮上は当然にも簡単ではありません。第三者の支援の手が伸び、自助努力もあって、やがてある種の転機をつかみはじめるまで、やはり人手はいるのです。

そうした人手に要する費用こそすぐにも手当てされるべきなのに、政府はどうにも実情から目を背けてしまっています。

国の若者支援の本気度はこの実効性見えにくく予算執行の有り様に囚わらずとも透けて見えているというのは穿ちすぎでしょうか。



スタッフ紹介



坂本まいこ

4月よりひなたの森、支援員として勤務しています。通ってきている方たちに色々教わっている毎日です。まだまだ至らない点があり日々反省をしています。ハートツリーには沢山の先輩方がいらっしやり、すぐに相談を聞いていただけることが助かっています。通ってこられる方と社会へ出て行く一歩になれるような時間を一緒に過ごしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



碓井 貴子

今年5月より、南紀若者サポートステーションで相談支援員として働かせていただいている碓井です。今までは、病院事務の仕事に携わってきました。趣味は、全国各地の音楽フェスに参加することです。同じ趣味の方がいれば嬉しいです。私自身、就労するにあたってたくさん悩み、苦しんだ経験があります。同じような悩みを抱えている方に寄り添い、的確な支援やサポートができるよう心がけていきたいと思っています。入社し初めて経験することばかりで不安は大きいですが、周りの方に支えていただきながら成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



南山 桂

もともとルルコロでひと月ほどお世話になっておりましたが、何かに導かれるように…5月1日よりサポステに机をご用意いただき、おこがましくも「相談支援員」という肩書きを頂戴し、恐縮の毎日をごしております。私自身、これまでの人生、そして今もなお「生きづらさ」みたいなものを持っていることを自覚しており、サポステに来て以降いろいろと勉強させていただく中で、同じように感じて生きている人たちに寄り添い、役立ちたいという想いが日々増していくのを感じます。「支援する」とは何か？ということか？わからないことだらけですが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。